

学長定例記者会見要項

日 時： 平成30年12月20日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. 影響力のある科学研究者として本学から2名が選出されました
～Highly Cited Researchers 2018年版に城戸教授、笹部准教授～
研究紹介：分子の潜在能力を引き出し、超低消費電力な有機ELを作る
2. 山形大学のインターンシップが全国最優秀賞を獲得
～低学年・地域密着型の取り組みが文部科学省から高く評価～
3. 3Dプリンタによる新しい介護食、嚥下食の開発
～科学技術振興機構 未来社会創造事業（探索加速型）に採択～
4. 「やまがた食育カレンダー2019」ができました

お知らせ

1. 山形大学入試直前相談会の開催について
2. 庄内スマート・テロワール「みそ」販売開始
3. 山形大学造形芸術コースの学生による卒業・修了制作展を開催
4. 大学院生が青苧の研究発表で優秀賞受賞
5. 小学生対象「みんなで楽しむスライム実験」を開催
6. やまがた夜話の開催について

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：平成31年1月17日（木） 11：00～11：45
場 所：法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（12月20日）発表者

1. 影響力のある科学研究者として本学から2名が選出されました ～高被引用論文著者 2018年版に城戸教授、笹部准教授～

研究紹介：分子の潜在能力を引き出し、超低消費電力な有機ELを作る

学術研究院 教授（有機エレクトロニクス）	きど 城戸	じゅんじ 淳二
学術研究院 准教授（有機材料化学）	ささべ 笹部	ひさひろ 久宏
クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社 取締役	たなはし 棚橋	よしこ 佳子

2. 山形大学のインターンシップが全国最優秀賞を獲得 ～低学年・地域密着型の取り組みが文部科学省から高く評価～

学術研究院 准教授（キャリア教育）	まつざか 松坂	のぶひろ 暢浩
山形県中小企業同友会 理事・共同求人委員会委員長		
株式会社サニックス 代表取締役社長	さとう 佐藤	ひらく 啓
山形県中小企業同友会 理事・共同求人委員会副委員長		
株式会社アイン企画 代表取締役社長	まつおか 松岡	ともみち 友路

3. 3Dプリンタによる新しい介護食、嚥下食の開発 ～科学技術振興機構 未来社会創造事業（探索加速型）に採択～

学術研究院 准教授（機械システム工学）	かわかみ 川上	まさる 勝
---------------------	------------	----------

4. 「やまがた食育カレンダー2019」ができました

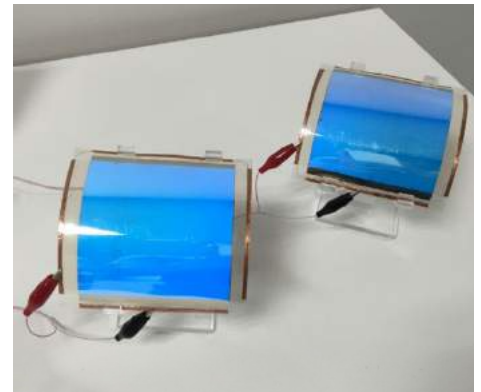
地域教育文化学部 3年	きたむら 北村	まな 真菜
〃	たかはし 高橋	はるか 遥

平成30年（2018年）12月20日

影響力のある科学研究者として本学から2名が選出されました ～Highly Cited Researchers 2018年版に城戸教授、笹部准教授～

【本件のポイント】

- 世界的に影響力の高い科学者を選出する「高被引用論文著者2018年版」に城戸淳二教授が5年連続、笹部久宏准教授が初めて選出された。
- 今回、日本の機関に所属する研究者は90名選出され、城戸教授は材料科学分野で大学に所属する研究者として唯一、笹部准教授は今回、新たに創設されたCross-Fieldでの選出となった。
- 東北エリアの大学からは東北大学（9名）及び山形大学（2名）が選出され、全国レベルでは地方国立大学から2名選出されたのは山形大学のみであった。



【概要】

世界的な情報サービス企業であるクラリベイト・アナリティクスは、自然科学及び社会科学の21の研究分野における論文の引用動向分析から、世界的に影響力の高い科学者として、Highly Cited Researchers（HCR：高被引用論文著者）を5年前から選出しています。この11月に発表された2018年版では、Material Science（材料科学）分野で城戸淳二教授が5年連続、新たに創設されたCross-Field（複数分野で大きな影響力を持ち、特定の分野で一定の高被引用論文を持つ研究者が対象）で笹部久宏准教授が初めて選ばれました。

◆Highly Cited Researchers（HCR：高被引用論文著者）

クラリベイト・アナリティクスが自然科学及び社会科学の21分野において、過去11年（2006年1月～2016年12月）に発表された論文の引用動向を分析し、各研究分野においてトップ1%の被引用数を持つ、インパクトの非常に高い論文を一定数以上発表している研究者を「高被引用論文著者」として選出したものです。

2018年版では、全世界で4058名、日本からは計33機関の90名が選出され、理化学研究所（12名）、東京大学（10名）、国立研究開発法人物質・材料研究機構及び東北大学（9名）、京都大学（7名）が上位5機関に名を連ねています。

<参考>

- ・ Highly Cited Researchers データベース：<https://hcr.clarivate.com/resources/archived-lists/>
- ・ Highly Cited Researchers について、選出方法など：<https://hcr.clarivate.com/methodology/>
- ・ クラリベイト・アナリティクス社プレスリリース

<https://clarivate.jp/news-releases/2018/2018-11-27-Clarivate-Analytics-names-the-worlds-most-impactful-scientific-researchers-with-the-release-of-the-2018-Highly-Cited-Researchers-List>



お問い合わせ

学術研究院教授（企画評価、IR担当）浅野 茂

TEL 023-628-4189 メール asano@cc.yamagata-u.ac.jp

PRESS RELEASE

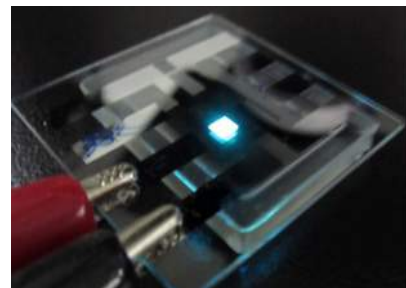
研究紹介 (Highly Cited Researchers2018選出)

平成30年 (2018年) 12月20日

分子の潜在能力を引き出し、超低消費電力な有機ELを作る

【本件のポイント】

- スマートフォンや大型テレビ、照明に用いられる有機ELは、用いる有機半導体材料によって発光効率と駆動電圧が大きく変化する。
- 独自の有機半導体材料技術により、分子の潜在能力を100%引き出すことで、乾電池2本で蛍光灯並みに光る超低消費電力な有機ELを実現した。
- ディスプレイや照明の大幅な消費電力の削減が期待される。



【概要】

有機 EL が身の回りで当たり前に使われる時代になりました。スマートフォンやタブレットなどの中小型ディスプレイ、2017 年からは大型有機 EL テレビも日本の有名家電メーカーから次々と登場しています。有機 EL の性能を決めるのは、使用する有機半導体材料です。使用する材料によって、効率や駆動電圧が劇的に変化します。笹部久宏准教授 (有機材料化学) は、有機材料のデザイン、合成、有機 EL への応用を通して、発光効率の向上や駆動電圧の低減に取り組んでいます。独自の材料技術により、乾電池2本で蛍光灯並みに光る超低消費電力な有機 EL の実現にも成功しています。材料分子の潜在能力をすべて引き出すため、単に新しい有機材料を開発するだけでなく、分子を構成する元素の配置や、実際に有機 EL の中で使われる際の分子の周辺環境まで踏み込んだ基礎研究を行っています。発表した学術論文は、世界で多くの研究者に引用され、注目されています。

【背景】

毎日の生活でスマートフォンやパソコン、テレビなどのディスプレイを見ない日はないでしょう。今やディスプレイのない生活は想像できないくらい、日常に浸透しています。ディスプレイには、有機 EL が当たり前のように使われる時代になりました。2017 年からは、日本の有名家電メーカーが次々と大型有機 EL テレビの販売を開始しています。有機 EL が日常にありふれた現在、消費電力の大幅な低減 (=省エネルギー化) が求められています。有機 EL は、用いる有機材料によって発光効率と駆動電圧が大きく変化するため、省エネルギー化を実現する新しい有機材料の開発が求められています。

【研究手法・研究成果】

有機 EL の性能を決めるのは、使用する有機半導体材料です。使用する有機材料によって、効率や駆動電圧が劇的に変化します。有機半導体材料は、量子化学計算によるシミュレーション、有機合成による材料開発、真空蒸着を利用した有機 EL の作成と評価を経て開発されます。例えば、新たに開発した n 型有機半導体材料を用いると、従来の材料と比べて、大型ディスプレイに必要な輝度 1000 cd/m^2 で、約 50%も駆動電圧の削減をすることができます。従来材料が 4.9V も必要なのに対して、新しい材料では、わずか、2.5V で駆動します。また、有機材料分子を構成する元素の配置をわずかに変えるだけで、電子を運ぶスピードが 100 倍も変化することを明らかにしています。

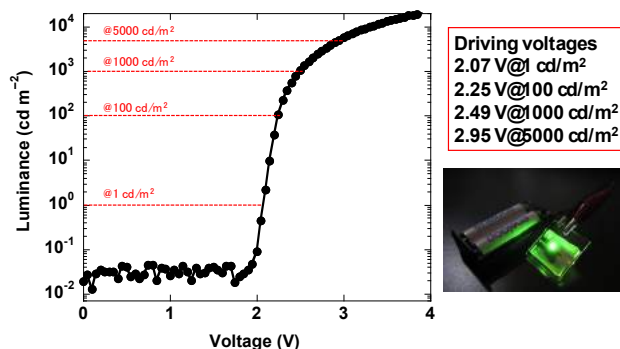
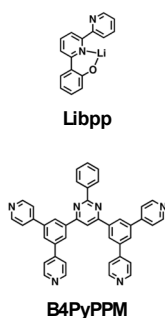
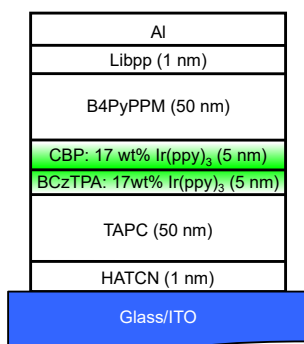


図1. 超消費電力緑色有機ELの構造と輝度-電圧特性

その他にも、新しい発光材料の開発や、有機ELの効率と寿命を飛躍的に向上させる新しい有機半導体材料の開発にも成功しています。発表した学術論文は、材料科学の一流学術誌の表紙を飾り、数多くの科学者に引用されています。

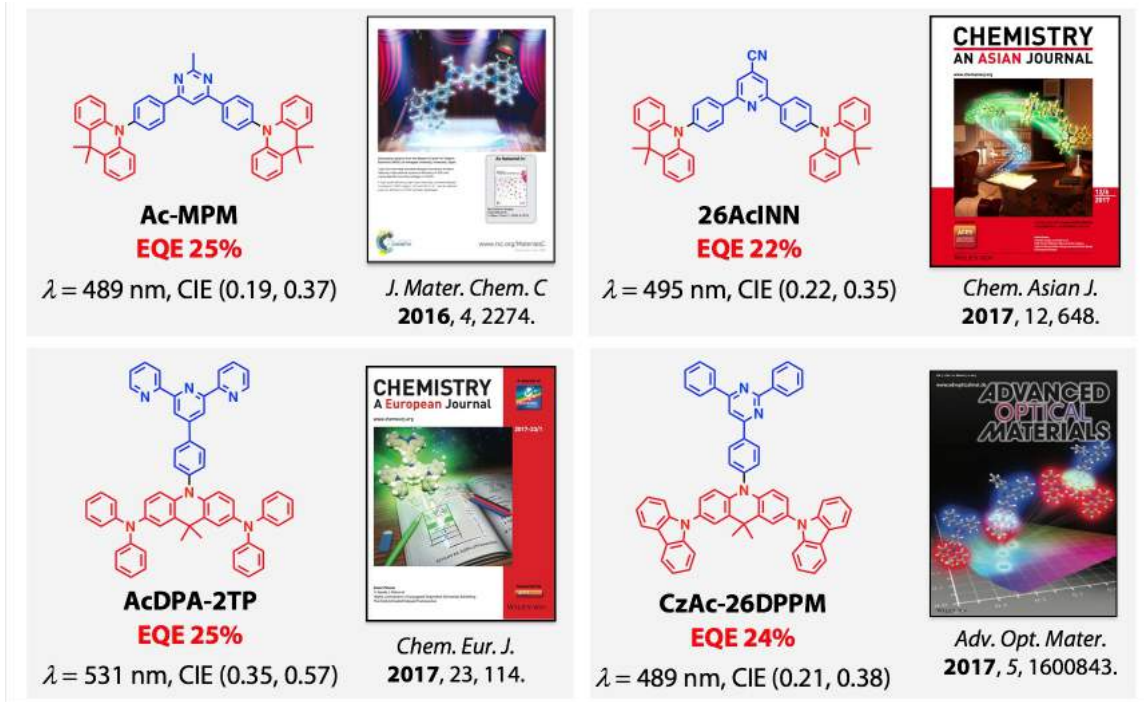


図2. 新たに開発した発光材料の化学構造と学術論文の表紙

【今後の展望】

ディスプレイの低消費電力化が進めば、スマートフォンやパソコンのバッテリーの寿命が飛躍的に伸び、充電の問題から開放されます。大型ディスプレイでは、大幅な電力量の削減、二酸化炭素排出量の低減が期待されます。有機材料をインク化すれば、印刷で低消費電力エネルギーのディスプレイの実現も可能となり、低コスト・省エネルギーの両立が期待されます。また、中小型ディスプレイが爆発的に普及した現在、ブルーライトが健康に与える影響が指摘されています。ブルーライトが少ない有機ELは省エネだけでなく、目に優しい光源として健康面からも快適な暮らしに寄与できると期待されています。

【研究助成】

これらの研究は、下記の科学研究費補助金、プロジェクト研究費の支援により進められています。

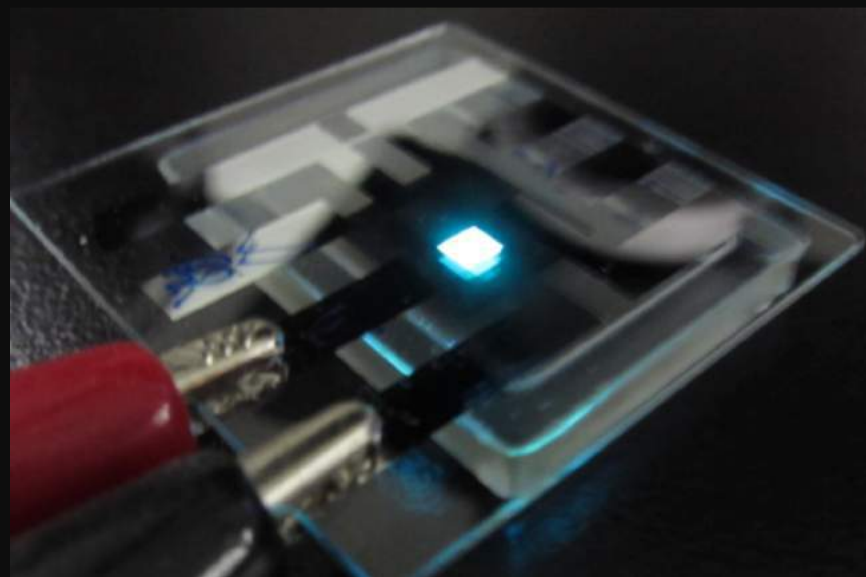
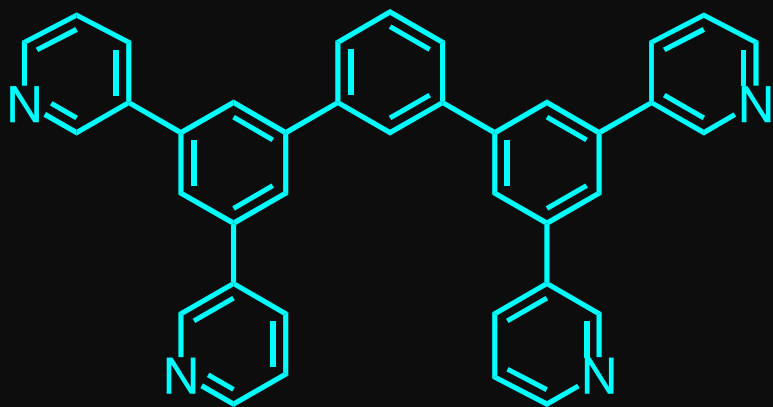
- ・ 科研費 若手研究 (B) 「高次有機ナノ構造制御を指向した次世代有機ELデバイス材料の創製と機能発現」
- ・ 科研費 挑戦的萌芽研究 「乾電池1本で光る有機ELデバイスへの挑戦」
- ・ 科研費 基盤研究 (B) 「超低消費電力 ICT 発光有機ELデバイスの開発」
- ・ NEDO 「高効率有機デバイスプロジェクト」
- ・ NEDO 「次世代高効率・高品質照明の基盤技術開発」
- ・ JST 「地域卓越研究者戦略的結集プロジェクト」
- ・ JST 「センターオブイノベーションプログラム」

お問い合わせ

学術研究院 准教授 (有機材料化学) 笹部 久宏 (ささべ ひさひろ)

TEL 0238-26-3924 メール h-sasabe@yz.yamagata-u.ac.jp

分子の潜在能力を引き出し、 超低消費電力な有機ELをつくる



笹部久宏 (Hisahiro SASABE)

山形大学 学術研究院 准教授 (有機材料化学)

2017年、大型有機ELテレビが続々登場



Panasonic

SONY



TOSHIBA

中小型では有機ELが当たり前に



iPhone X

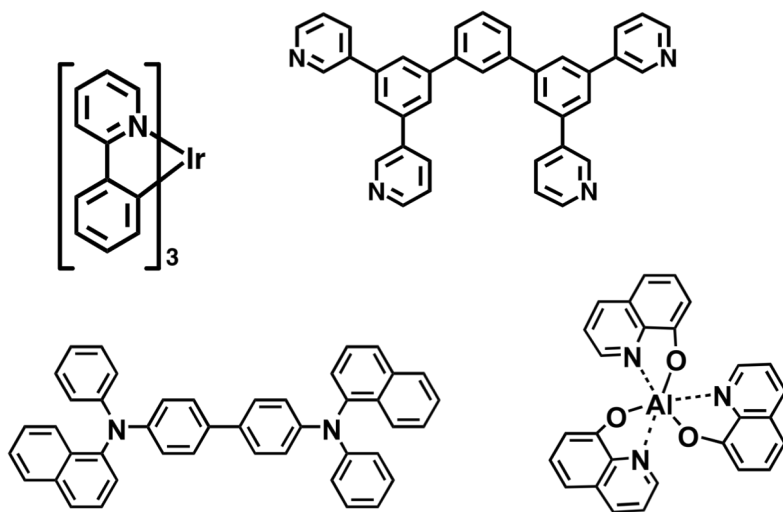
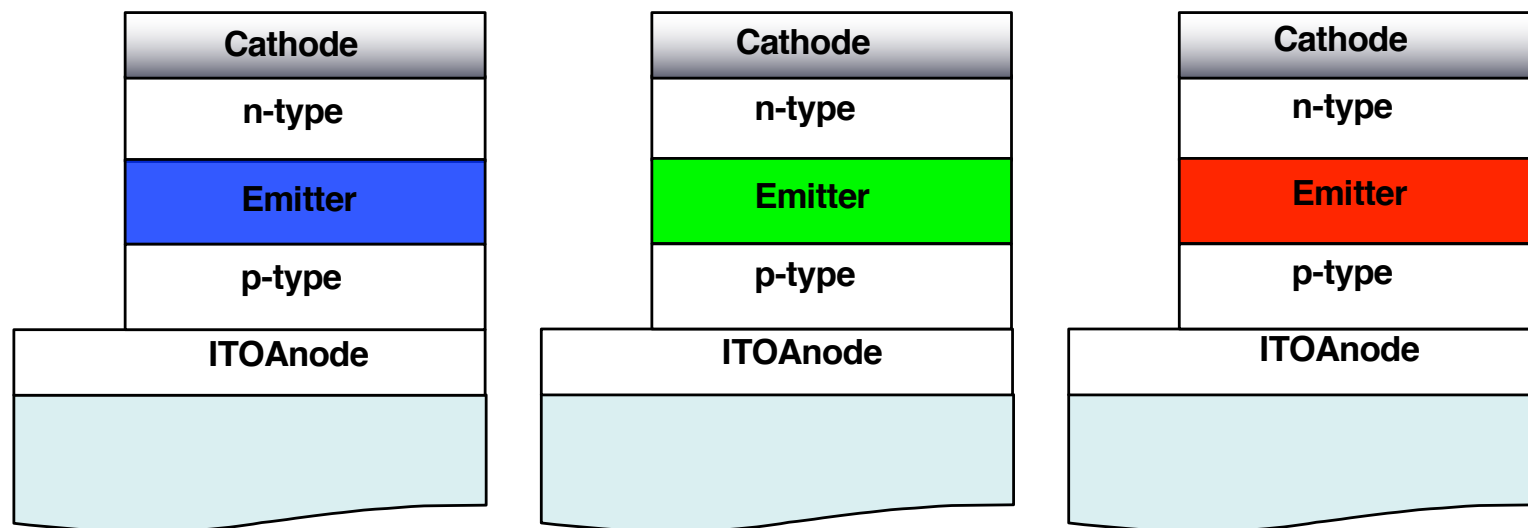


Apple Watch



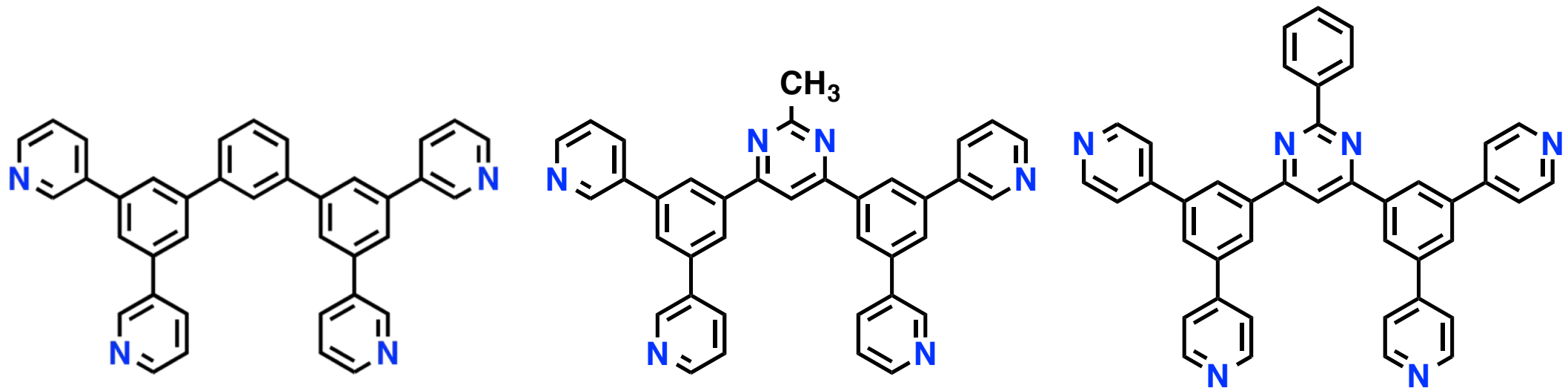
Galaxy S8

有機ELの構造



有機ELの効率と駆動電圧は用いる有機材料で決まる

独自の有機材料技術による低消費電力化



B3PyPB

B3PyMPM

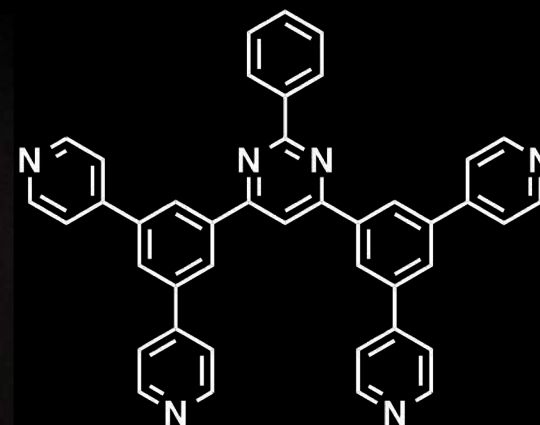
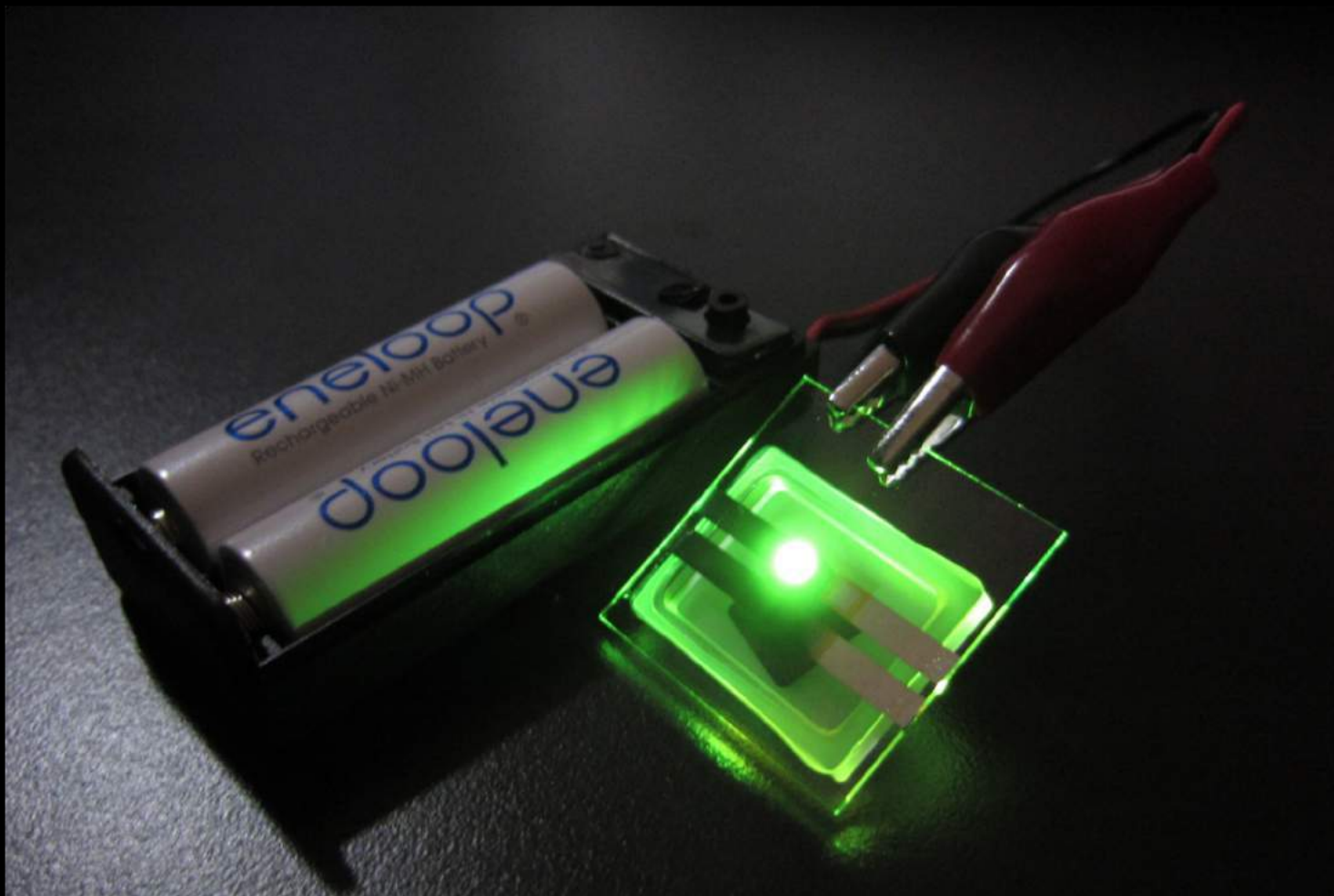
B4PyPPM

駆動電圧の低減と高効率化の両立が可能

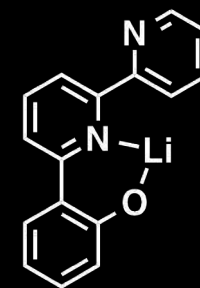
1) D. Tanaka *et al.*, *Jpn. J. Appl. Phys.* **2007**, 46, L10; 2) H. Sasabe *et al.*, *Chem. Commun.* **2008**, 5821; 3) H. Sasabe *et al.*, *Chem. Mater.* **2008**, 20, 5953. 4) S.-J. Su *et al.*, *Adv. Mater.* **2008**, 20, 4189; 5) H. Sasabe *et al.*, *Chem. Commun.* **2009**, 6655; 6) H. Sasabe *et al.*, *Adv. Mater.* **2010**, 22, 5003.

2013 NEDO pj

乾電池 2 本で蛍光灯並みに光る有機ELを開発!



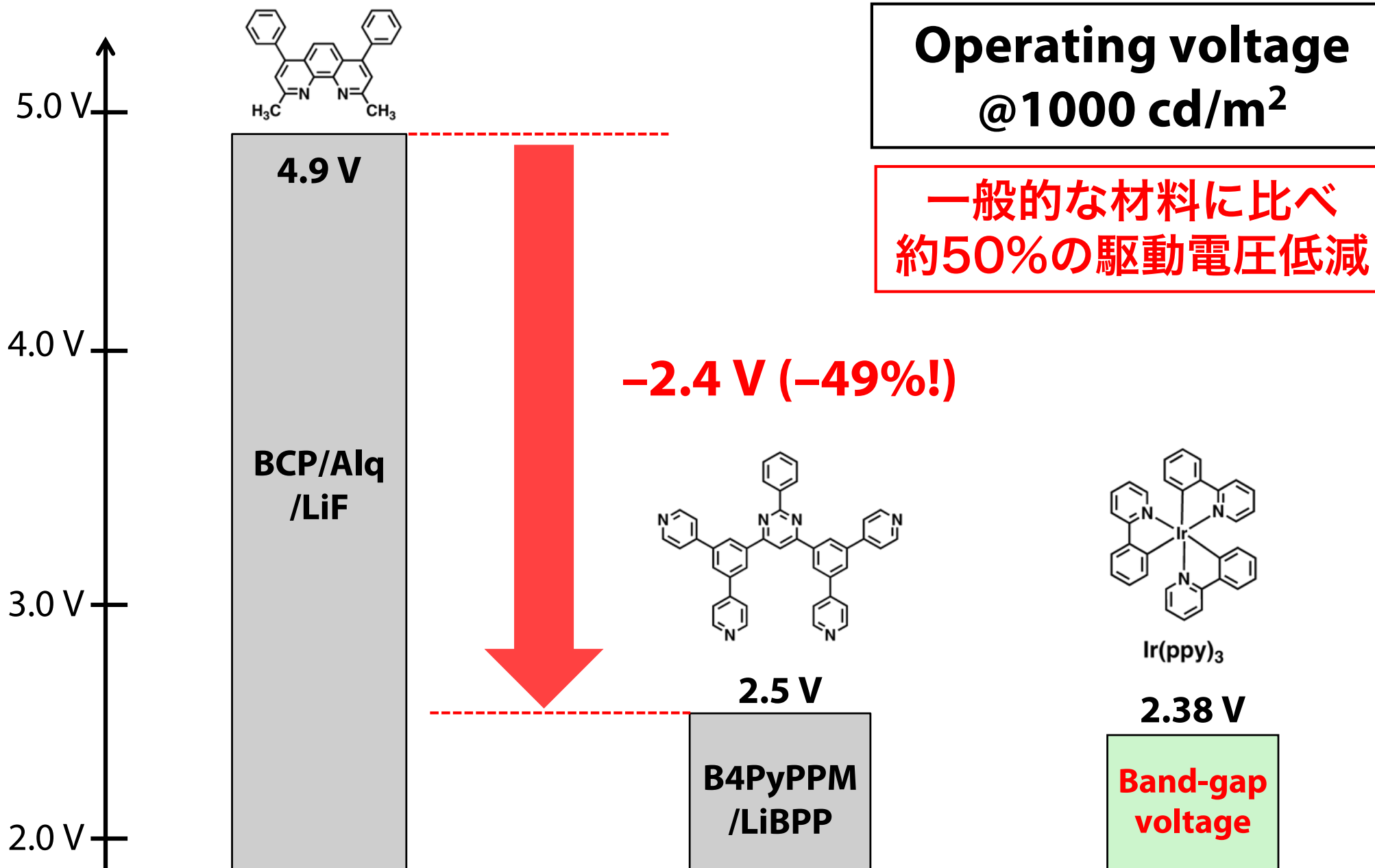
B4PyPPM



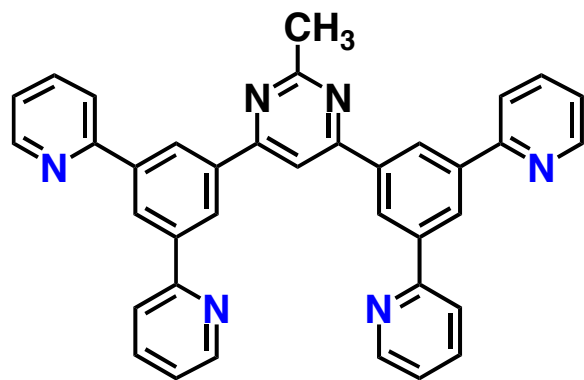
LiBPP

H. Sasabe, J. Kido *et al.*, *Adv. Funct. Mater.* **2013**, 23, 5550.

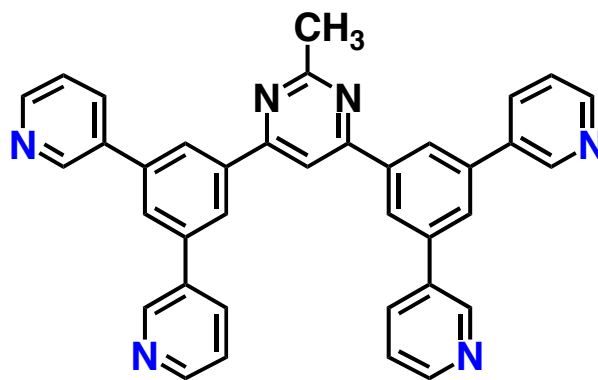
大幅な駆動電圧の低減効果



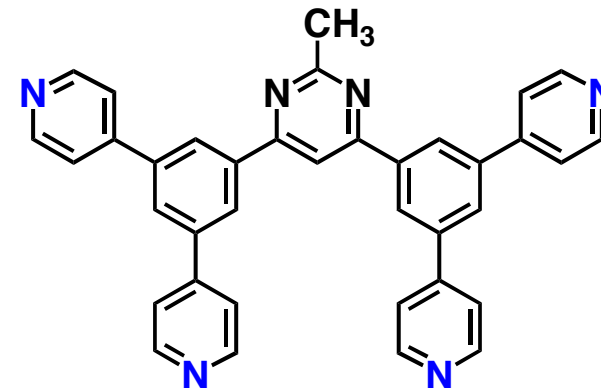
化学構造のわずかな違いで大きく異なる物性



B2PyMPM



B3PyMPM

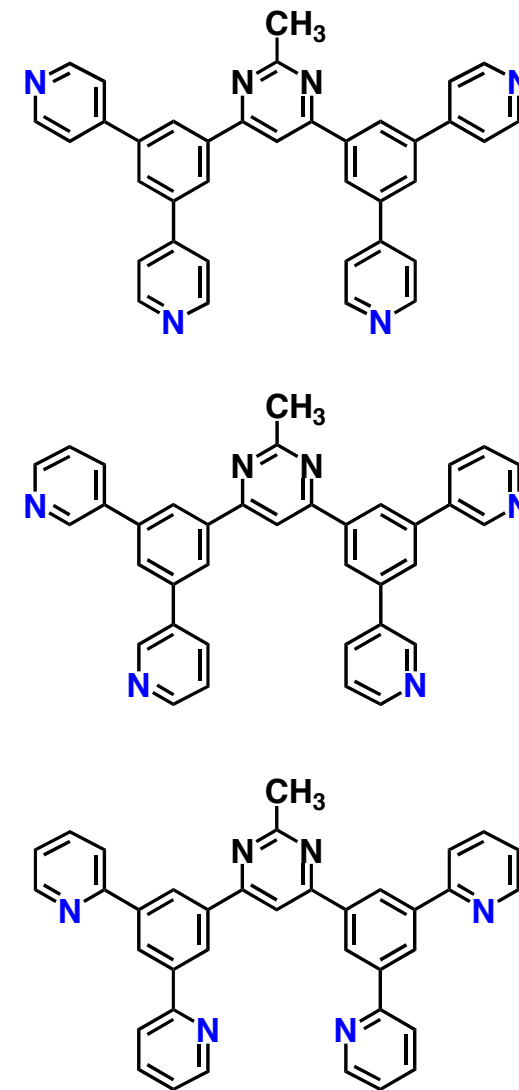
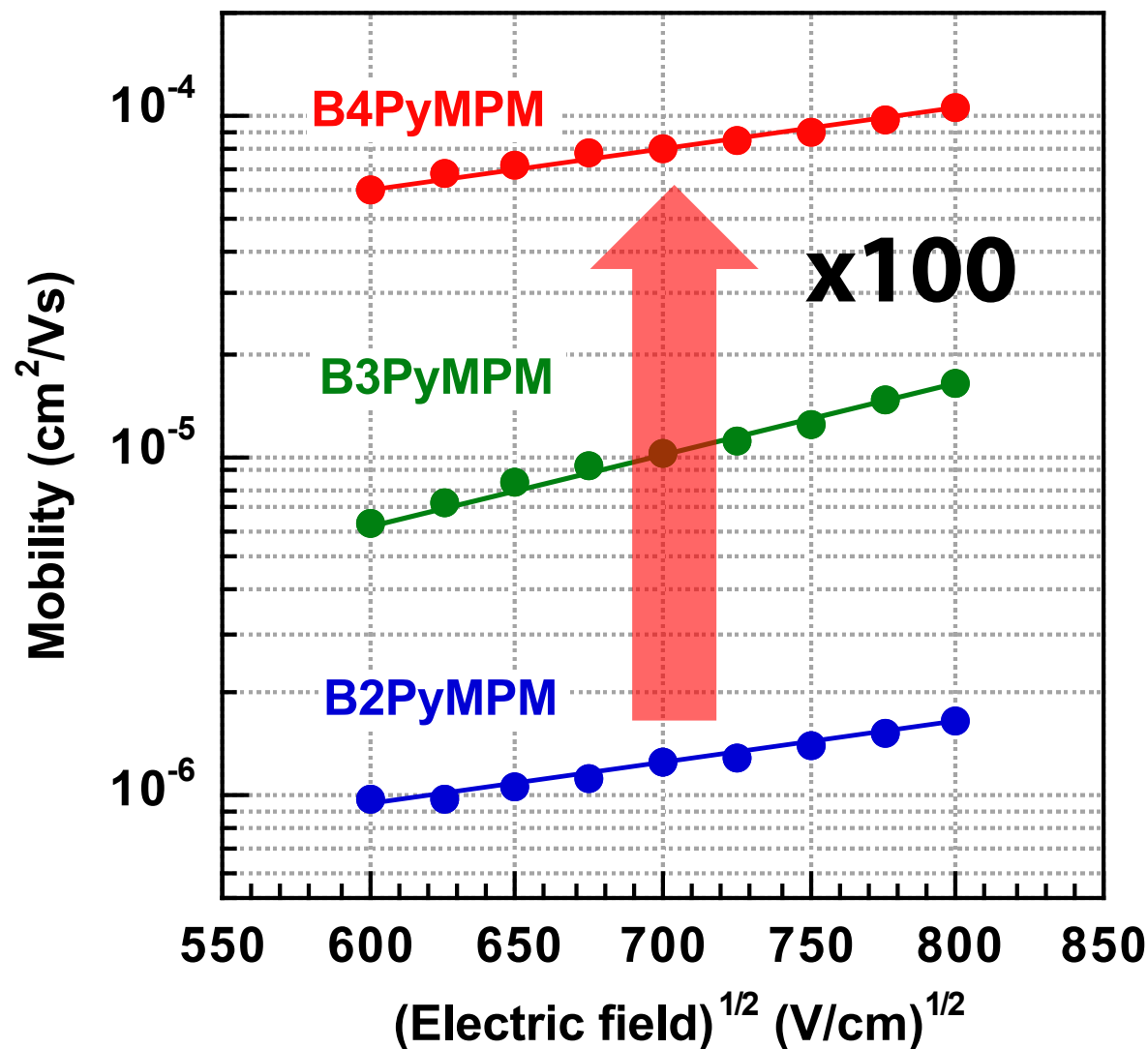


B4PyMPM

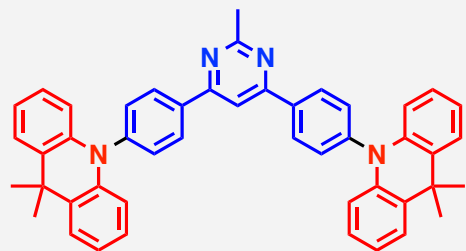
	B2PyMPM	B3PyMPM	B4PyMPM
IP (UPS)	-6.62 eV	-6.97 eV	-7.30 eV
EA	-3.07 eV	-3.44 eV	-3.71 eV
T_m	257°C	326°C	374°C

電子を運ぶ速度も劇的に変わる

Device structure: [ITO/BPyMPM derivatives (7.2~8.0 μm)/Al(100 nm)]

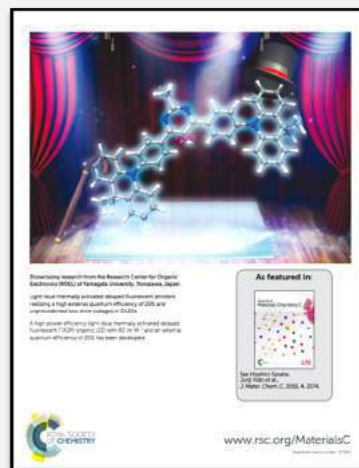


次世代発光材料群の開発

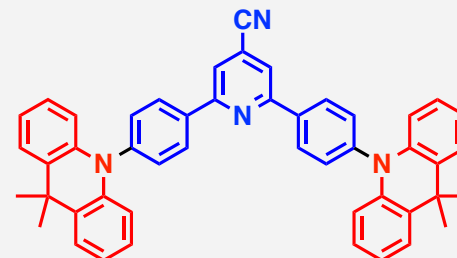


Ac-MPM
EQE 25%

$\lambda = 489 \text{ nm}$, CIE (0.19, 0.37)



J. Mater. Chem. C
2016, 4, 2274.

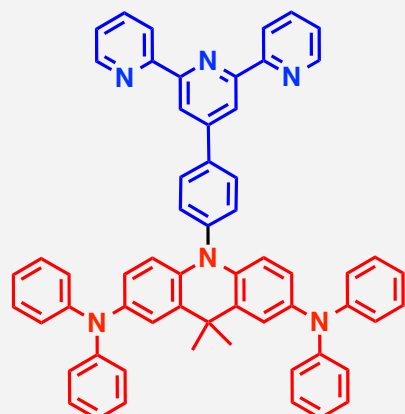


26AcINN
EQE 22%

$\lambda = 495 \text{ nm}$, CIE (0.22, 0.35)



Chem. Asian J.
2017, 12, 648.

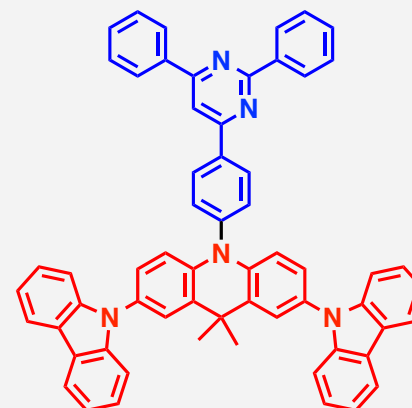


AcDPA-2TP
EQE 25%

$\lambda = 531 \text{ nm}$, CIE (0.35, 0.57)

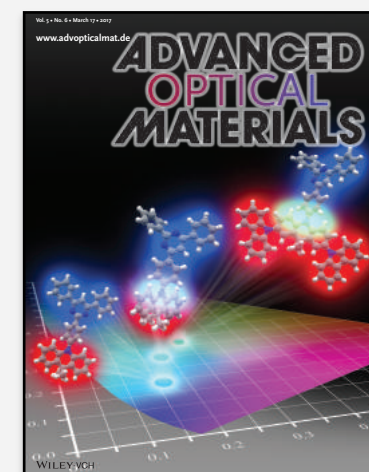


Chem. Eur. J.
2017, 23, 114.



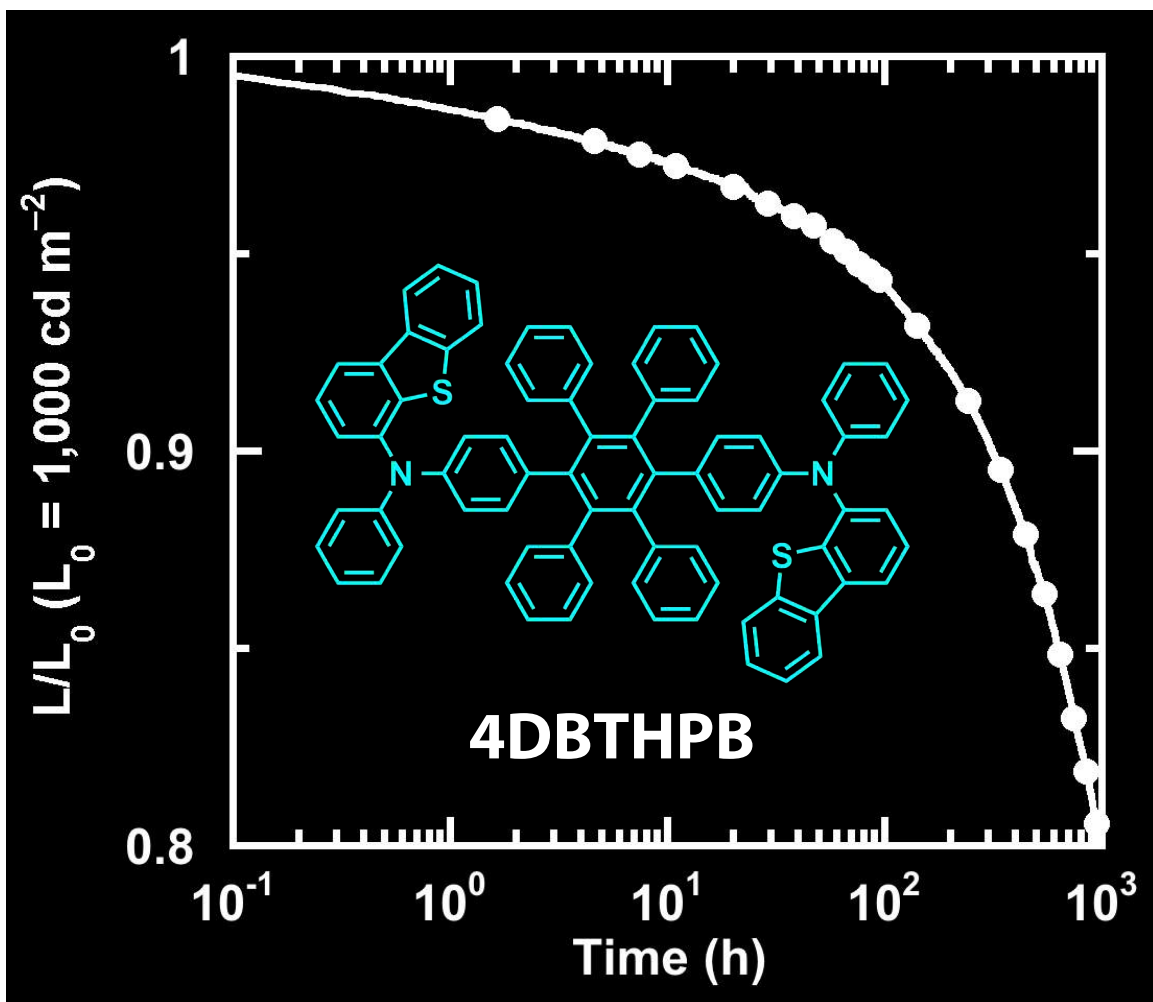
CzAc-26DPPM
EQE 24%

$\lambda = 489 \text{ nm}$, CIE (0.21, 0.38)



Adv. Opt. Mater.
2017, 5, 1600843.

長寿命かつ低コストな次世代有機ELの実現



高輝度で省電力と長寿命を両立



*T. Kamata et al.,
Chem. Eur. J.* 2018, 24, 4590.
Accepted: 28th, Nov. 2017



今後の展望

① 有機ELの超低消費電力化

- ・ スマフォ、パソコンのバッテリーの長寿命化
- ・ 充電の問題からの開放
- ・ 大型ディスプレイの電力量の大幅削減

② ブルーライトの低減

- ・ 長時間使っても目に優しいディスプレイ
- ・ 国民病である睡眠不足解消にも貢献

③ 印刷による低コスト化

- ・ 省エネと低コスト化の両立

ご静聴、ありがとうございました！



Financial supports by: COI pj 2015–2021, and KAKENHI (17H03131) 2017–2019.

平成30年（2018年）12月20日

山形大学のインターンシップが全国最優秀賞を獲得 ～低学年・地域密着型の取り組みが文部科学省から高く評価～

【本件のポイント】

- インターンシップを実施する大学等を文部科学省が今年度から初めて表彰、山形大学のインターンシップが第一回最優秀賞を獲得
- 大学1年生からキャリア意識を高める取り組みや、本学と山形県中小企業家同友会との組織的な連携が高く評価
- 本インターンシップに対する学生満足度は98%、キャリア意識や学習意欲の向上など、履修学生の進路選択活動にも大きな役割を果たす



【概要】

文部科学省では、インターンシップ（企業等での職業体験）のさらなる充実に向けて、大学等が実施するインターンシップを公表する制度を平成30年2月に創設しました。同制度には、全国163校の大学や高等専門学校等が自校で実施する、インターンシップ計302プログラムが登録されています（平成29年度実績）。

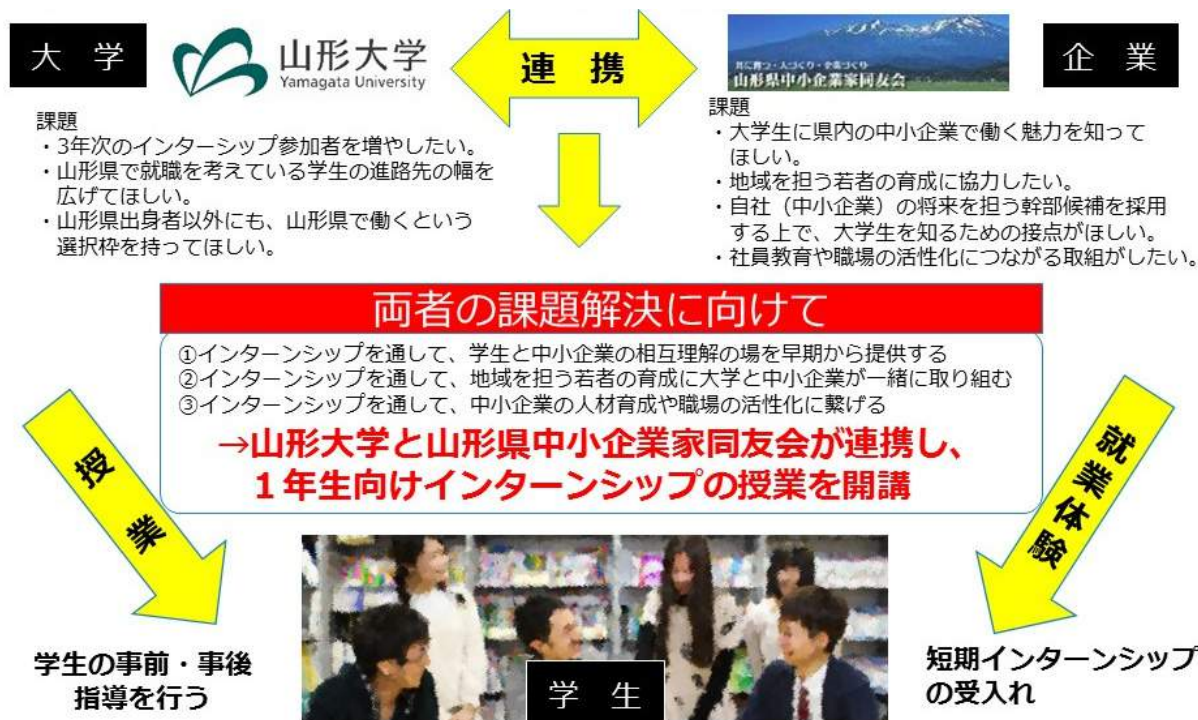
そのプログラムの中から、他の大学等や企業へのモデルとなるインターンシップを表彰する制度が今年度創設され、山形大学が同制度初の最優秀賞に選出されました。（最優秀賞1校、審査員特別賞1校、優秀賞6校）
※届出制度163校のうち審査対象大学等は77校（大学68校、短期大学校5校、高等専門学校4校）

【山形大学のインターンシッププログラム】

「フィールドワーク 山形の企業の魅力（プレインターンシップ）」（平成29年度：1年生43人が参加）

- 評価ポイント①：低学年（1年生の授業として開講、早期の就業体験を通じてキャリア意識を高める）
- 評価ポイント②：地域連携（受入先を地元中小企業に絞り、中小企業の理解促進につなげる）
- 評価ポイント③：モニタリング（参加学生のキャリア意識等の変化を追跡調査し、効果を検証）

※受入企業：山形県中小企業家同友会に加盟企業の内25社



【今後の展望】

●学生へのキャリア・就職支援を充実

本学の特徴である基盤共通教育を通じて、低学年からのキャリア教育の質向上を目指していきます。（基盤共通教育キャリア系科目履修者は学生約2,000名（平成30年度前期・後期科目合計））

本学のキャリア教育は、日本経済団体連合会「今後の採用と大学教育に関する提案（平成30年12月4日）」にある「初年次におけるキャリア教育」を先駆けて取り組んでいます。今後は、学生と地域で働く人との接点を増やすなど、地域企業と連携したキャリア・就職支援を充実させ、地域創生・若者の地域定着に貢献します。

●インターンシップの普及への取り組み

インターンシップの普及に向けて、山形大学のプログラムのPR・発信を各シーンで継続していきます。

《 講演予定等 》

- ・1月10日 平成30年度COC+シンポジウム「オールやまがたによる若者定着を目指して」にて本インターンシップ事例報告（山形県中小企業家同友会社員共育委員会委員長、田宮印刷(株)阿部常務取締役）
- ・1月29日 独立行政法人日本学生支援機構主催「平成30年度インターンシップ専門人材セミナー ～基礎編～」にて松坂准教授がパネルディスカッションに参加
- ・1月30日（予定） 中小企業家同友会全国協議会主催のイベントにて山形県中小企業家同友会と松坂准教授が講演予定
- ・2月26日（予定） 東北インターンシップ推進コミュニティ（東北地方の各大学連携組織）主催の研修会にて松坂准教授が講演予定

【参考】

審査員特別賞：

恵泉女学園大学

優秀賞：

長岡技術科学大学 大阪大学 亜細亜大学 東京工科大学 湘北短期大学 仙台高等専門学校

※インターンシップに関する届出や表彰の各制度の詳細については、文部科学省のHPをご覧ください。

- 大学等におけるインターンシップ制度の公表について（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1401051.htm

- 大学等におけるインターンシップ表彰の申請について（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1408338.htm

表彰式の様子
(12月10日（月）東京開催)



松坂准教授と山形県中小企業家同友会松岡理事



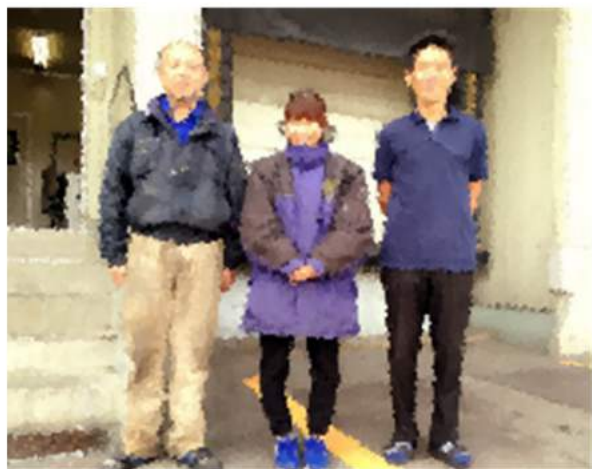
文部科学省副大臣からの表彰

お問い合わせ

学術研究院 准教授 松坂暢浩（キャリア教育）

TEL. 023-628-4899

山形大学と県内中小企業団体の連携による1年生向けインターンシップ



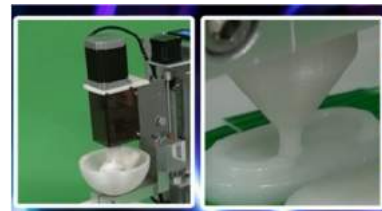
インターンシップ実習風景



3Dプリンタによる新しい介護食、嚥下食の開発 ～科学技術振興機構 未来社会創造事業（探索加速型）に採択～

【本件のポイント】

- 本学川上勝准教授（機械システム工学）の提案する研究テーマ「形状、食感を制御したソフト食の製作技術の開発」が、平成30年度科学技術振興機構未来社会創造事業（探索加速型）に採択。
- 食品3Dプリンタによる新しいソフト食（介護、嚥下食）の開発を目指す。
- 高齢者の、食という場におけるQOL（生活の質）の向上に貢献することが期待される。



【概要】

科学技術振興機構（JST）では、社会・産業ニーズを踏まえ、経済・社会的にインパクトのあるターゲット（出口）を明確に見据えた、技術的にチャレンジングな目標を設定し、社会や産業において、研究開発成果の実用化が可能かどうか見極められる段階（概念実証：POC）を目指した研究開発「未来社会創造事業」を実施しています。今回、未来社会創造事業の「世界一の安全・安心社会の実現」領域における重点公募テーマ「ヒューメインなサービスインダストリーの創出」において、本学の川上勝准教授（機械システム工学）の提案する「形状、食感を制御したソフト食の製作技術の開発」研究テーマが、探索加速研究として採択されました。

これまで介護食、嚥下食は、見た目も悪く、食感も単調、均一で、高齢者の、食という場におけるQOL（生活の質）は決して高いと言えませんでした。また介護の場での食の準備も大変な労力で、介護の労働力不足に悩む日本の大きな問題でもあります。本研究では、ソフト食品3D製造技術を開発し、個人の体調、好みにあわせて、形状、食感を対応させた、見た目も食感も良いソフト食品の製造技術を開発します。これにより、介護食の質を大幅に向上させ、介護施設や在宅看護の場においても、手軽に介護食を製造できるサービスの実現を目指します。これらは高齢者の食の楽しみ、食に関する尊厳を大きく向上させることにつながると期待されます。

【事業概要】

食品メーカー（東京）、射出成形加工メーカー世紀株式会社（米沢市）と共に、複数の食材（ノズル）を用いて、任意の形や食感を持たせたソフト3D食品を製造可能とする技術を開発します。積層が困難である柔らかい素材の3次元的に造形を実現には、ノズル吐出技術の開発、食材の物性制御などの課題が予想されます。また、どのような形状、物性が、高齢者の好みに合うのかという根本的な官能試験も必要とされます。

これらの課題をクリアし、個人の好みや医療情報に応じ、質（味、食感、好み、栄養情報）の高い介護食を開発することが出来れば、安全、安心、高い質を持った食のサービスを提供できる社会が実現できると期待されます。



お問い合わせ 学術研究院准教授 川上勝（機械システム工学）
TEL 023-826-3197 メール kmasaru@yz.yamagata-u.ac.jp

科学技術振興機構(JST)

「未来社会創造事業（探索加速型）平成30年度新規研究開発課題」に 山形大学から3件が採択されました

平成30年度は、704件の応募があり、62件が採択されました。うち、本学の採択件数は3件で、機関別では6位（同率）、採択率では1位（応募件数が5件以上の機関）となりました。採択課題は以下の通りです。

「世界一の安全・安心社会の実現」領域（運営統括：田中 健一）

■重点公募テーマ「ヒューメインなサービスインダストリーの創出」

研究課題名：形状、食感を制御したソフト食の製作技術の開発

代 表 者：川上 勝（山形大学学術研究院 准教授 有機材料システム研究推進本部担当）

■重点公募テーマ「生活環境に潜む微量な危険物から解放された安全・安心・快適なまちの実現」

研究課題名：下水処理場での耐性菌リスクの検知と低減

代 表 者：渡部 徹（山形大学学術研究院 教授 農学部担当）

「共通基盤」領域（運営統括：長我部 信行）

■重点公募テーマ「革新的な知や製品を創出する共通基盤システム・装置の実現」

研究課題名：物質の構造解析に用いるフーリエ解析・大域的最適化の高度化

代 表 者：富安 亮子（山形大学学術研究院 准教授 大学院理工学研究科担当）

※ 未来社会創造事業（詳しくは <http://www.jst.go.jp/mirai/jp/>）

JSTでは平成29年度より未来社会創造事業を開始しました。本事業では、社会・産業ニーズを踏まえ、経済・社会的にインパクトのあるターゲット（出口）を明確に見据えた技術的にチャレンジングな目標を設定し、戦略的創造研究推進事業や科学研究費助成事業等の有望な成果の活用を通じて、実用化が可能かどうか見極められる段階（概念実証：POC）を目指した研究開発を実施します。その研究開発において、斬新なアイデアの取り込み、事業化へのジャンプアップ等を柔軟かつ迅速に実施可能とするような研究開発運営を採用します。

（<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/about/index.html>「事業紹介」より引用）

上位機関件数(代表機関)

<応募件数 上位機関>

順位	機関	件数
1	東京大学	56
2	大阪大学	41
3	東北大学	31
4	京都大学	28
5	名古屋大学	27
6	九州大学	26
6	産業技術総合研究所	26
8	東京工業大学	23
9	筑波大学	18
10	理化学研究所	17

<採択件数 上位機関>

順位	機関	件数
1	東京大学	6
1	東京工業大学	6
3	京都大学	5
4	大阪大学	4
4	九州大学	4
6	名古屋大学	3
6	山形大学	3
8	国立情報学研究所	2
8	東北大学	2
8	北陸先端科学技術大学院大学	2

<採択率 上位機関(応募件数が5件以上の機関)>

順位	機関	件数
1	山形大学	50.0%
2	東京工業大学	26.1%
3	京都大学	17.9%
4	岡山大学	16.7%
4	広島大学	16.7%
6	九州大学	15.4%
7	金沢大学	12.5%
7	東京農工大学	12.5%
7	横浜国立大学	12.5%
10	名古屋大学	11.1%

平成30年（2018年）12月20日

「やまがた食育カレンダー2019」ができました

【本件のポイント】

- 地域教育文化学部食環境デザインコースの学生が中心となって制作し、毎年ご好評を頂いている食育カレンダーが今年も発行となりました。
- 今回のテーマは「東北食堂」。東北各県の名物料理や特産品と山形の食材の美味しいコラボレーション料理が満載です。
- 毎月のコラムは「備災食」についてです。災害時にも役立つ食生活のポイントを具体的に紹介しています。



【概要】

山形の食の豊かさを紹介し、学校や家庭で食について子どもと話すきっかけ作りとして、食育カレンダーを毎年制作し、無料で配布しています。食環境デザインコース3年生が決めた今年のテーマは「東北食堂」。東北の名物料理や特産品と、山形の食材をマッチングさせて新しい料理を紹介しています。また「備災食」として、災害時にも役立つ食生活のアイデアを具体的に紹介しています。昨年に引き続き、今年も千部を発行し、希望者に無料で配布（送料は自己負担）します。

【カレンダーの特色】

- (1)見開き上部：その月にちなんだ料理を学生が考案。実際に調理し、カラーの画像と共に作り方を紹介。
- (2)見開き下部：食にちなんだ記念日、「備災食」のアイデア、食生活力（フードリテラシー）チェックを掲載。
- (3)末尾：更に詳しく知りたい方のために、記念日の由来等を掲載。

【制作の経緯】

地域教育文化学部食環境デザインコース3年生対象の授業「栄養教育実習Ⅱ」において、担当教員である大森桂教授が、カレンダーの制作を提案。学生が班ごとに担当する月を決め、毎日の食に関する記念日やトピックの内容を検討。毎月紹介する料理も学生が考案し、試作を重ねました。料理の撮影およびカレンダー全体の監修は大森教授が担当。編集作業は、本学の男女共同参画推進事業の一つである、研究継続支援員制度を活用。

【カレンダーにより期待される効果】

家庭や学校、保育園・幼稚園等における食育の教材として様々な活用ができます。

- ①見開き下部の毎日の話題をきっかけに、巻末の詳しい解説も活用しながら、子どもの興味に応じて幅広い学習が年間を通して継続的にできます。
- ②山形や東北で味わえる毎月の旬の食材や郷土料理も紹介しており、子どもだけでなく、特に若い世代の保護者にも郷土食に興味を持って頂き、地産地消にも貢献できるのではないかと考えています。

【入手方法】

昨年同様に千部発行。ご希望の方は、A4サイズの入る返信用封筒（角形2号）に送付先を記入し、送料（1部の場合250円、2～3部の場合380円）分の切手を同封の上、大森研究室（山形市小白川町1-4-12山形大学地域教育文化学部）までご郵送ください。小白川キャンパス内のインフォメーションセンターでも無料で配布しています。詳細は学部HPに掲載予定です。

お問い合わせ

学術研究院教授（食教育）大森桂 omorik@e.yamagata-u.ac.jp

小白川キャンパス事務部総務課地域教育文化学部担当 023-628-4304

平成30年12月20日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 山形大学入試直前相談会の開催について

一般入試出願前の受験生の不安解消のため、入試直前相談会を開催します。事前申込みは不要。遠方の方には、電話相談も受け付けます。

期 間：平成31年1月24日（木）～2月1日（金）

場 所：ゆうキャンパスステーション（山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階）

2. 庄内スマート・テロワール「みそ」販売開始

平成28年4月から、寄附講座 食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座を設置し、庄内地域における食料自給圏の構築に向けた実証研究を行っています。その取り組みの一環として、製造を進めてきた『庄内スマート・テロワールみそ』が完成し、12月から地元スーパーマーケットにて販売を開始しました。

3. 山形大学造形芸術コースの学生による卒業・修了制作展を開催

～バリエーション豊かな集大成作品約65点を展示～

山形大学で芸術を学ぶ学部4年生（造形芸術コース）10名、大学院生（造形芸術分野）2名による卒業・修了制作展を開催します。

学 部 生：山形県郷土館 文翔館（山形市旅籠町3丁目4-51）

平成31年1月17日（木）～1月24日（木）

大学院生：山形大学附属博物館（山形市小白川町1丁目4-12）

平成31年1月17日（木）～2月27日（水）

4. 大学院生が青芋の研究発表で優秀賞受賞

～山形県の伝統作物の多様性・系統関係をDNA解析で解明～

平成30年11月23日に弘前大学で開催された第13回東北育種研究集会において、山形大学大学院農学研究科修士1年西田悠希さんが優秀ポスター賞を受賞しました。

5. 小学生対象「みんなで楽しむスライム実験」を開催

山形大学SCITAセンターが企画した今年度5回目の実験教室。今回は栗山恭直教授（理学部担当）が不思議で楽しいサイエンスショーも行います。

日 時：平成31年1月13日（日）10:30～12:15／13:00～14:30

会 場：山形県産業科学館「発明工房」、「フリースペース」

6. やまがた夜話の開催について

大学コンソーシアムやまがたでは、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方からお話ししていただく「やまがた夜話」を開催しています。1～3月は「放送大学山形学習センター教養講座」として開講します。

[※裏面へ](#)

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎ COC+シンポジウム「オールやまがたによる若者定着を目指して」について

日 時：平成31年1月10日（木）13：30～16：45

場 所：山形国際ホテル3F富士の間（山形市香澄町3-4-5）

※裏面へ

平成30年（2018年）12月20日

山形大学入試直前相談会の開催について

【本件のポイント】

- 一般入試出願前の不安解消に。
- 約2週間開催。都合のよい日に参加いただけます。
- 事前申込不要。電話相談も可。



【概要】

山形大学では、一般入試出願前の受験生の不安解消のため、入試直前相談会を開催します。センター試験後の、平成31年1月24日（木）～2月1日（金）の約2週間の期間中、入試広報担当者が受験生・保護者・高校教員からのご質問に応じます。事前申込みは不要ですので、三者面談や講習などの日程に合わせ参加いただけます。また、遠方の方には、お電話での相談も受け付けます。

受験生にとって、進学（受験）先の選択は人生の分岐点の一つです。受験生の不安を少しでも解消し、納得のうで山形大学を受験いただくよう、この機会を是非ご利用ください。

【平成31年度入試直前相談会】～一般入試出願前の不安解消に～

- 日 時：平成31年1月24日（木）～平成31年2月1日（金）15時～18時
※1月26日（土）は電話での相談のみ受付（10時～15時）
※1月27日（日）は実施いたしません。
- 場 所：①会場にお越しいただく場合
ゆうキャンパスステーション（山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階）
※駐車場はございませんので、近隣の有料駐車場をご利用願います。

②お電話によるご相談の場合
TEL：023-628-4062
- 対 象：受験生、保護者、高校教員等
- その他：事前申込みは不要です。直接会場にお越しいただくか、お電話にてご相談ください。

お問い合わせ

エンrollment・マネジメント部EM企画課

TEL 023-628-4062 メール enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学

入試直前 相談会

一般入試出願前の不安解消に

内容



入試広報担当教員との個別相談



受験生の方・保護者の方・高校の先生方を対象に、出願前に、入試科目や出願手続、学部・学科の中身や取得できる資格など気になることをご相談ください。

電話でのご相談もOKです。

事前申込不要

日時

1/24 (木)	1/25 (金)	1/26 (土)	1/27 (日)	1/28 (月)	1/29 (火)	1/30 (水)	1/31 (木)	2/1 (金)
15:00 ～18:00	15:00 ～18:00	10:00 ～15:00 ※電話のみ	休	15:00 ～18:00	15:00 ～18:00	15:00 ～18:00	15:00 ～18:00	15:00 ～18:00

※上記時間に会場もしくは電話にて相談を受け付けます。(1/26は電話のみ・1/27は休)

場所・電話

①会場にお越しいただく場合

場所：ゆうキャンパスステーション

住所：山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階
ミスタードーナツさんの隣)

※駐車場はございませんので、
近隣の有料駐車場をご利用願います。



②お電話によるご相談の場合

TEL：023-628-4062

(お問合せ) 山形大学エンrollment・マネジメント部EM企画課

TEL:023-628-4062,4063 Mail:enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成30年（2018年）12月20日

庄内スマート・テロワール「みそ」販売開始

【本件のポイント】

- 地元加工業者の協力の元『庄内スマート・テロワールみそ』が完成
- 鶴岡市羽黒地区の月山試験地にて協力農業者が生産した良質なダイズと庄内産はえぬき一等米を使用
- 12月から鶴岡市・酒田市のスーパーマーケットにて販売を開始



【概要】

山形大学農学部では平成28年4月から、寄附講座「食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座を設置し、庄内地域における食料自給圏の構築に向けた実証研究を行っています。

この取り組みでは、山形大学農学部と地元の農業者、食品加工業者および小売業者（スーパーマーケット）とが連携し、おいしい加工食品を作り、地域の皆さまの食卓に提供することを目標の一つとしています。

本プロジェクトも3年目を迎え、地元産の飼料用子実トウモロコシや規格外農産物（バレイショ・ダイズ）で肥育した豚を地元加工業者がハムやソーセージなどに加工し、地元のスーパーマーケットにて販売しています。

さらに昨年、鶴岡市羽黒地区の月山試験地にて協力農業者が生産した良質なダイズと庄内産はえぬき一等米を用い、地元加工業者の協力の元、『庄内スマート・テロワールみそ』の製造を進めてきました。この秋、その『みそ』が完成し、12月から地元スーパーマーケットにて販売を開始しました。

月山高原から広がる庄内のテロワール（風土）を感じるやさしい味の味噌に仕上がりました。ぜひ一度、ご賞味ください。

【販売先】

鶴岡市内

株式会社 主婦の店鶴岡店

販売店舗：パル店・mina店・IZMO新斎店・イーネ駅前店

酒田市内

株式会社 ト一屋

販売店舗：みずほ通り店・新橋店・駅東店・高見台店

*店舗限定による数量限定販売のため、なくなり次第、今年度の販売は終了となります。

【製造先】

合資会社 鷲田民蔵商店（山形県鶴岡市本町3丁目8-21）

【販売価格】

800g入り 400円

お問い合わせ

鶴岡キャンパス事務室（附属施設担当）

TEL 0235-24-2278 メール nogyomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成30年（2018年）12月20日

山形大学造形芸術コースの学生による卒業・修了制作展を開催 ～バリエーション豊かな集大成作品約65点を展示～

【本件のポイント】

- 山形大学で芸術を学ぶ学部4年生（造形芸術コース）10名、大学院生（造形芸術分野）2名による卒業・修了制作展2018を開催
- 今年度のポスターは「Colors of 12 people」をテーマに、高橋朋子さん（地域教育文化学部4年）が制作
- 山形大学附属博物館のほか今年度は文翔館を会場に開催、市民や大学で美術を学びたい中高生など、みなさんに親しまれる制作展に



【概要】

地域教育文化学部造形芸術コース4年生と大学院地域教育文化研究科文化創造専攻造形芸術分野2年生が、山形大学での学びの集大成として卒業・修了展2018を開催します。

今年度のテーマは、「12人には12の色がある」という思いが込められた「Colors of 12 people」。高橋朋子さん（地域教育文化学部4年）がポスター制作を担当しました。制作展では、絵画作品や木彫、版画、アニメーション、インテリアを用いたインスタレーション、紙を用いた被服表現といった様々な技法・材料を駆使したバリエーション豊かな作品約65点が展示予定です。市街中心地の文翔館も会場になっており、地域のみなさんに学生の作品を身近に感じてもらえるような制作展を開催します。

【制作展 開催情報】

- ▷学部生 日時：平成31年1月17日（木）～1月24日（木） 9：00～16：30
※1/21(月)は休館
会場：山形県郷土館 文翔館（山形市旅籠町3丁目4-51）
- ▷大学院生 日時：平成31年1月17日（木）～2月27日（水） 9：30～17：00
※1/18(金)、毎週土・日・祝日は休館
(2/2(土)、2/3(日)のみ11：00～17：00開館)
会場：山形大学附属博物館（山形市小白川町1丁目4-12）
・大学院修了制作ギャラリートーク：2月2日（土）13：30～
・修了研究発表会：2月2日（土）14：30～



【見どころ・詳細情報】

- ・例年と会場が異なり、学部生は山形県郷土館文翔館、大学院生は山形大学附属博物館でそれぞれ開催します。文翔館では8つのギャラリーに分けて展示を行い、ギャラリー毎に作者それぞれの世界観を楽しむことができます。
- ・制作展は学生が中心となって企画・準備を進めており、大学院生はギャラリートーク、学部生は日替わりで随時自身の作品解説を来場者に向けて行う予定です。
- ・各会場ともに入場無料です。

お問い合わせ

学術研究院教授 小林俊介（地域教育文化学部担当）

TEL 023-628-4329 メール zoukei27@gmail.com



卒業 修了展

-Colors of 12 people-

山形大学

地域教育文化学部地域教育文化学科造形芸術コース

2019年1月17日(木)~1月24日(木)

開館時間◆9:00~16:30

休館日◆1/21(月)

【会場】

山形県郷土館 文翔館

〒990-0047 山形県山形市藤電町3丁目4番51号

大学院地域教育文化研究科文化創造専攻造形芸術分野

2019年1月17日(木)~2月27日(水)

2月2日(土)キアライトーク 13:30~/修了研究発表会 14:30~

開館時間◆9:30~17:00 (2/2(土)・2/3(日) 11:00~17:00)

休館日◆1/18(金)~1/20(日)、毎週土・日・祝日 ※2/2(土)・2/3(日)は開館致します。

【会場】

山形大学附属博物館

〒990-8560 山形県山形市小白川町1丁目4-12

(山形大学人文社会科学部1号館1階)

【問い合わせ】〒990-8560 山形県山形市小白川町1丁目4-12 山形大学地域教育文化学部地域教育文化学科造形芸術コース
【E-mail】zoukei27@gmail.com 【Twitter】@yamadai_sotsuten 【TEL】023-628-4329

入場無料

平成30年（2018年）12月20日

大学院生が青苧の研究発表で優秀賞受賞 ～山形県の伝統作物の多様性・系統関係をDNA解析で解明～

【本件のポイント】

- 紅花と並ぶ山形県の伝統作物である青苧のDNA解析を行い、本県大江町の青苧の特徴や会津との関係を解明し、学会で優秀ポスター賞を受賞。
- 青苧やカラムシと呼ばれ日本で古くから栽培されている身近な繊維作物であるが、日本の青苧のDNA解析をしたのは本研究が初めて。
- 大江町の青苧復活夢見隊などとの共同研究の成果であり、地域の伝統作物の特徴を知ることによって地域貢献につながることを期待される。



【概要】

平成30年11月23日に弘前大学で開催された第13回東北育種研究集会において、山形大学大学院農学研究科修士1年西田悠希さんが「伝統的繊維作物『青苧』のDNAマーカーを用いた多様性解析」という演題で発表し、優秀ポスター賞を受賞しました。山形県大江町の青苧復活夢見隊などとの共同研究として行った大江町と他県の青苧をDNA解析の結果を発表し、大江町の青苧の多様性や福島県会津のカラムシなど他県のものとの系統関係を報告。大江町の青苧が複数のタイプに分かれること、大江町の青苧と会津の苧が遺伝的に近い可能性があることなどを明らかにした成果が評価されました。

【背景】

青苧は、苧（からむし）、ラミーなどと呼ばれアジアで広く栽培される繊維作物であり、宮古上布や越後上布など地方特産の高級織物の原料として、かつては日本各地で栽培されていました。現在では福島県会津地方の昭和村が日本一のカラムシの里として有名ですが、本県でも江戸時代には紅花と並ぶ特産品として、内陸地方を中心に栽培されてきました。栽培は一時期途絶えたものの、大江町で10年前に青苧復活夢見隊が結成され、青苧の栽培を復活し地域起こしを図っています。しかし、青苧についての科学的な情報は少なく、栽培・自生の青苧の中に見られる葉の色や形、茎の色などが異なる様々なタイプの遺伝的な違いや、沖縄から東北まで広く栽培されていた青苧の系統関係についても不明でした。本研究は、そんな青苧の特徴を科学的に解明できないか、という青苧復活夢見隊からの依頼で始まり、西田さんは指導教員とともにこの地域貢献型の共同研究に取り組んできました。平成28年度には大江町からの受託研究費、平成29年度には山形大学「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」地域志向教育研究経費の助成を受けています。

【研究手法・研究成果】

大江町の8集団、その他新潟、福島、沖縄など他県の青苧合計約70個体を用い、葉緑体の遺伝子間領域のシーケンシングと核SSR解析の2種類の手法でDNA解析を行いました。その結果、調べた青苧は葉緑体で6タイプ、核SSRで6タイプに分かれることが判明。そのうち葉緑体の4タイプと核SSRの6タイプが大江町の中で見つかり、大江町の青苧が非常に多様なものであることがわかりました。また、これらのDNA解析で区別された遺伝的なタイプの違いは葉の色や形などの形質の違いとは関係がないこともわかりました。さらに、他県のサンプルとの比較で、福島県会津地方のサンプルが、大江町でもっとも多くみられたタイプと同じタイプであり、本県の青苧と会津のカラムシが遺伝的に同一の起源をもつ可能性が明らかになりました。

お問い合わせ

学術研究院准教授 笹沼恒男（植物遺伝・育種学）

TEL 0235-28-2889 メール sasanuma@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

この発見は、会津初代藩主・保科正之が山形から会津への国替えの際、家臣に出羽の青苧を取り寄せさせ会津で栽培を始めた、との文献情報に一致します。西田さんはこれらの成果について発表し、優秀ポスター賞を受賞しました。

【今後の展望】

西田さんは、指導教員とともに、本研究の成果を大江町で開かれた青苧復活夢見隊 10 周年記念展や、昭和村の会津学研究会などで一般市民向けに講演し、好評を得ました。また 5 月には山形県の若松正俊副知事、9 月には福島県昭和村の舟木幸一村長、10 月には大江町の渡辺兵吾町長と面会し研究成果を報告しました。いずれの方からも、地域伝統作物の特徴を解明し、地域の歴史・伝統・文化に関する知見を深める重要な研究であり、若い方が熱意をもって新しい切り口で研究をしてきているのもうれしい、是非今後も進めてほしいなどの激励の言葉をもらいました。このように地域から寄せられる期待が大きいことを受け、西田さんは「これまでの研究は大江町のものも多く使っているため、今後は全国や海外のサンプルも加えて系統関係を解明し、“青苧の来た道”を明らかにすることを目指したい。自分の研究が、地域の歴史や伝統文化への理解を深めるのに役立ち、地域の活性化や、青苧を作っている地域同士の交流につながってくれたらいい。」と述べています。

お問い合わせ

学術研究院准教授 笹沼恒男（植物遺伝・育種学）

TEL 0235-28-2889 メール sasanuma@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

平成30年（2018年）12月20日

小学生対象「みんなで楽しむスライム実験」を開催

【本件のポイント】

- 子ども達の理科離れに歯止めをかけることを目的に平成25年度から年複数回開催。今年度は5回目
- 山形大学SCITAセンターで養成しているサイエンス・コミュニケーター「スライムマイスター」が中心となって、山形大学SCITAセンターの学生スタッフとともに子ども達に科学の楽しさを伝える。
- 山形大学栗山恭直教授（理学部担当）のサイエンスショーも開催。



【概要】

山形大学 SCITA センターでは、平成31年1月13日（日）に、山形県産業科学館（霞城セントラル4F）において、小学生を対象に科学の楽しさを体験してもらうイベント「みんなで楽しむスライム実験」を開催します。このイベントは、子どもたちの理科離れに歯止めをかけようと、同センターが企画したもので、平成25年度から年に複数回開催しており、今年度は5回目の開催です。実験内容は、子どもたちに大人気の3種類を用意。いろいろな色の光るスライム、長くのびたりするスライムやきれいな丸いカプセル作りに挑戦できます。イベントでは、SCITAセンターが養成しているサイエンス・コミュニケーター「スライムマイスター」が中心となって、学生スタッフと一緒に子どもたちの指導にあたります。さらに、今回は、栗山恭直教授（理学部担当）が不思議で楽しいサイエンスショーも行います。

【イベント内容】

開催日時：平成31年1月13日（日） 10時30分～12時15分
13時00分～14時30分
※サイエンスショーは10時30分と13時40分の2回

<実験教室> 会場 山形県産業科学館「発明工房」（霞城セントラル4階）

やまがた『科学の花咲かせ隊』*スライムマイスターと山形大学 SCITA センター学生スタッフが小学生を対象に科学の楽しさを体験してもらうイベントを実施します。（小学生以下のお子さんでも体験可能ですがその際は保護者の方同伴をお願いいたします。）

- 実験内容 ①「のびるスライム」 長くのびるスライムを作ります。
②「光るスライム」 光をあてると発光する不思議なスライムを作ります。
③「カラフルカプセル」 いろいろな色の小さな丸いカプセルを作ります。

<サイエンスショー> 会場 山形県産業科学館「フリースペース」（霞城セントラル2階）

「空気に重さはあるのかな？」

山形大学栗山恭直教授（理学部担当）による科学へ理解を深める楽しいサイエンスショー。普段空気に重さがあることは感じませんが空気にも重さがあることを実感してもらいます。

※ 山形大学 SCITA センターでは、「科学の花咲く」プロジェクトとして、科学が文化として地域社会に根付くよう県内各地域、各分野の大学、科学館、研究機関、教育関係者などの連携による科学技術理解の活動充実や活発化、サイエンス・コミュニケーター養成をすすめています。養成されたサイエンス・コミュニケーター（スライムマイスター、クラゲマイスター、蔵王マイスター、月山マイスター）たちは、『科学の花咲かせ隊』として地域や家庭で科学の不思議さや面白さを教えるイベント等で活躍しています。

お問い合わせ
山形大学 SCITA センター（棚井）
電話 023-628-4517

みんなで楽しむスライム実験²⁰¹⁸

「光るスライム」「のび～るスライム」を作ろう

自由参加・無料



★同時開催★

山形大学 栗山 恭直教授による
サイエンスショー

午前の部 10:30～11:10

午後の部 13:40～14:20

☆同時開催☆

SCITAセンター学生スタッフ

実験ブース「カラフルカプセルをつくろう」

※ 小さなお子様は保護者同伴でお願いします

1月13日(日)

午前の部 : 10:30～12:15

午後の部 : 13:00～14:30

霞城セントラル4F 産業科学館「発明工房」

募集対象 : 幼稚園児、小学生 募集人数 : 80名

指導者 : スライムの風 (会長 : 菅原晃) 会員

お問い合わせ先 : スライムの風事務局(山形大学SCITAセンター内) 電話 : 023-628-4506

主催 : 山形大学SCITAセンター スライムの風

やまがた夜話



放送大学山形学習センター教養講座

平成31年

1月16日(水)「SDGsと科学」

講師: 栗山 恭直 氏(放送大学客員教授/山形大学教授・理学部担当)

- 持続可能な社会(SD)という言葉がメディアで使われていますが、その歴史的背景や意味、さらに、話題のSDGsについて、科学の観点から説明したいと思います。

1月23日(水)「あまり知られていないパラリンピックの話

—今から東京パラリンピックを楽しむために—

講師: 千葉 登 氏(放送大学客員准教授/山形県立保健医療大学准教授)

- 東京パラリンピックまで2年を切りました。ボランティアの募集も始まり準備着々と進んでいます。パラリンピックについて知ることでもっと知ってもらえるようなお話をしたいと思います。

2月 6日(水)「山形県インバウンド観光の動向について—口コミ情報の分析から—

講師: 下平 裕之 氏(放送大学客員教授/山形大学教授・人文社会科学部担当)

- 山形県を訪れた外国人観光客の動向について、観光客の旅行サイトへの書き込み(口コミ情報)の分析から考えます。

2月13日(水)「土門拳の旧制中学校時代」

講師: 山本 陽史 氏(放送大学客員教授/山形大学教授・EM部担当)

- 写真家土門拳の横浜第二中学校(旧制。現横浜翠嵐高校)時代の絵画や作文を紹介し、その才能を分析します。

2月20日(水)「“記憶”の心理学」

講師: 佐藤 宏平 氏(放送大学客員准教授/山形大学准教授・地域教育文化学部担当)

- 今回は記憶について考えます。さまざまな記憶や記憶のメカニズムや法則について演習を交えながら楽しく学びます。

2月27日(水)「ことばにしてみましょう」

講師: 富田 かおる 氏(放送大学客員教授/山形大学教授・人文社会科学部担当)

- 口に出すのは照れくさいですか。大丈夫。外国語なら届かなくても平気、通じたら大喜び。諸語を話しましょう。

3月 1日(金)「算数の“学び直し”」

講師: 佐藤 圓治 氏(放送大学山形学習センター所長/山形大学名誉教授)

- 小学校の算数で習う「面積」について考えます。これを現代数学の視点から眺めてみると、算数の教科書の内容がよく見えてきます。

※時間はいずれも18:30~19:30です。

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス

山形駅東口より徒歩1分

対象

高校生・学生・一般市民

お申し込み

チラシ裏面の参加申込書に必要事項を記入の上Fax、郵送、メール等でお申し込みください。

定員:50名

入場無料

主催

大学コンソーシアムやまがた

お申込み・お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820

E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp





FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前々日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。
	<input type="checkbox"/> 平成31年 1月16日(水) 講師:栗山 恭直 氏
	<input type="checkbox"/> 平成31年 1月23日(水) 講師:千葉 登 氏
	<input type="checkbox"/> 平成31年 2月 6日(水) 講師:下平 裕之 氏
	<input type="checkbox"/> 平成31年 2月13日(水) 講師:山本 陽史 氏
	<input type="checkbox"/> 平成31年 2月20日(水) 講師:佐藤 宏平 氏
	<input type="checkbox"/> 平成31年 2月27日(水) 講師:富田かおる 氏
<input type="checkbox"/> 平成31年 3月 1日(金) 講師:佐藤 圓治 氏	
住 所	〒
氏 名	
連絡先	TEL
	E-mail
所 属	必須ではありません

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820

E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp